

東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra

ほとぼしるヴェニャフスキ、駆け抜けるベート

8/6水

[プレトーク]

14:20~14:40

話=出口大地

※本公演と同じお席でお楽しみください。

[開演] 15:00

[終演予定] 17:00



指揮: 出口大地

Daichi Deguchi, *Conductor*

ヴァイオリン: 前田妃奈*

Hina Maeda, *Violin*

コンサートマスター: 依田真宣

Masanobu Yoda, *Concertmaster*



ベートーヴェン: 劇付随音楽『エグmont』op. 84 序曲 (9分)

Beethoven: Overture to "Egmont", op. 84

ヴェニャフスキ: ヴァイオリン協奏曲第2番
二短調 op. 22* (25分)

Wieniawski: Violin Concerto No. 2 in d minor, op. 22

第1楽章 アレグロ・モデラート

第2楽章 ロマンズ: アンダンテ・ノン・トロppo

第3楽章 アレグロ・コン・フォーコー — アレグロ・モデラート(ジプシー風に)

— 休憩(20分) —

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 op. 92 (40分)

Beethoven: Symphony No. 7 in A major, op. 92

第1楽章 ポーコ・ソステヌート — ヴィヴァーチェ

第2楽章 アレグレット

第3楽章 プレスト

第4楽章 アレグロ・コン・ブリオ

※演奏時間は目安です。 ※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

皆様にコンサートをお楽しみいただくために、
ご協力をお願いいたします。



開演中は、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末など音や光を発する電子機器の電源をお切りください。光を強く反射する物は鞆におしまってください。



時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。



ハウリングの発生を防ぐために、補聴器などが正しく装着されていることをご確認ください。



演奏中の入退場はご遠慮ください。全席指定の公演です。ご自分の席でお聴きください。



許可のない写真撮影・録音・録画は固くお断りいたします(カーテンコール時を除く)。



演奏中に音が出ないように十分ご注意ください(鈴のついたお手荷物・鉛の包みを開ける際の音・プログラムをめくる音など)。



演奏中の会話はお控えください。



演奏が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから拍手・ブラボーなどの声援をお送りください。



客席内での飲食はご遠慮ください。



館内では咳エチケット・適切な手指消毒を推奨しております。

終演後のカーテンコールの撮影が可能です。

撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。 ※撮影前にフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。 ※目線より高い位置での撮影や、スマートフォン・携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください。 ※SNSなどに投稿する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください。

主催: 川崎市、ミュージーザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

後援: 川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、TBSラジオ

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会



Colors, Future!
いろいろって、未来。

川崎市



音楽のまちかわさき



文化庁

「ベト7」のエネルギッシュなリズム

情熱ほとばしるヴァイオリンの超絶技巧と

自由を求め犠牲となる英雄

ベートーヴェン:劇付随音楽『エグモント』序曲

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)は1809年秋、宮廷劇場から依頼を受け、ヴォルフガング・フォン・ゲーテの戯曲『エグモント』に音楽をつけた。この物語は、16世紀に実在したラモラル・エグモント伯爵——スペインの圧政に苦しむオランダで活躍した英雄——をモデルとしている。彼の恋人クレールヒェンは反逆罪でとらえられ獄中にあるエグモントを救出しようとするものの失敗して服毒自殺し、エグモントも自由の勝利を悟りつつ処刑される、という悲劇である。

ベートーヴェンはこの題材に惹かれたことだろう。中心的なテーマである「人間の自由」は、彼の信念と共鳴するものだったからである。さらに「民族の解放」という点もベートーヴェンが強く関心を抱いた問題で、またナポレオン率いるフランス軍に占領されていた当時のウィーンの人々に共感をもって受け入れられたと思われる。

序曲はヘ短調。短調のなかでも、とくに悲劇的だと考えられていた調である。導入部付きのソナタ形式と捉えられるが、まるで劇のストーリーを予告するように音楽は進んでゆく。すなわち、ゆっくりとした導入部は不条理な圧政と人々の苦悩を、アレグロ主部は民衆の暴動や反乱を、コーダはエグモントの死、そしてヘ長調に転じたクライマックスは「勝利」の表現であるかのように響く。

輝かしいヴァイオリンの技巧

ヴィエニャフスキ:ヴァイオリン協奏曲第2番

ヘンリク・ヴィエニャフスキ(1835～1880)は、ポーランド出身のヴァイオリニストで作曲家である。幼い頃からヴァイオリンの才能を示し、8歳でパリ音楽院に入学、13歳から演奏活動を始め、生涯にわたってヨーロッパ中、さらにはアメリカ大陸にまで演奏旅行し、人気を博した。また指導者として、サンクトペテルブルクやブリュッセルの音楽院で活躍した。

卓越したヴァイオリニストであったヴィエニャフスキは、ニコロ・パガニーニと同様、ヴァイオリンのための作品が多い。それらはもちろん、ヴァイオリンの特性を知り尽くした者ならではの書法である。ヴァイオリン協奏曲第2番は1862年に作曲され、同年サンクトペテルブルクで自身のヴァイオリンで初演された。この演奏を聴いたツェーザリ・キュイは友人のミリイ・バラキレフに宛てて「私はまだあの最初のアレグロの衝撃から立ち直っていない」と書き送っている。

第1楽章は協奏的ソナタ形式。オーケストラが2つの主題を示したあと、ヴァイオリンが「小声で(sotto voce)」で入ってくる。そして至るところでヴァイオリンの超絶技巧が聴かれる。ロマンスの**第2楽章**は変ロ長調で3部形式。情熱的な中間部の両端を穏やかに美しい楽想が飾る。**第3楽章**は情熱あふれる楽章である。途中には「アラ・ツィンガラ(ジプシー風に)」と指示された個性的な旋律が現れる。



ベートーヴェンの肖像画
(ヨーゼフ・ウィリブロード・メーラー画、1815年)

祝祭的な響きの魅力

ベートーヴェン:交響曲第7番

「舞踏の神格化」——リヒャルト・ワーグナーは、彼の崇拜する作曲家の一人であるベートーヴェンの交響曲第7番をこう呼んだ。この言葉によく表れているように、この作品の大きな特徴は、踊るようなエネルギッシュなリズムである。1811年冬頃から1812年、つまり40代前半のベートーヴェンが書いたこの交響曲では、彼が若い頃からこだわっていた「リズム」という要素に徹底的に焦点が当てられているのだ。また、ドローン(低音での持続音)がしばしば用いられるのも特徴的で、それがどこか素朴な踊りの雰囲気醸し出している。ちなみに、これは作曲者自身にとっても満足いく作品であったようで、当時ロンドンで活躍していたJ.P.ザロモンに宛てた手紙で、「イ長調の大交響曲(私の最も優れた作品の一つ)」と発言している。

第1楽章は、長大な序奏——オーケストラの力強い和音のあと、オーボエのソロが立ち現れてくるという独創的なもの——で始まる。付点リズムが効果的に全体を支配している。**第2楽章**はアレグレット。同主短調のイ短調とイ長調が交互に現れる。**第3楽章**の5部分からなるスケルツォは、ヘ長調という遠い——しかし第1楽章の序奏ですでにほのめかされていた——調で、怒涛のごとく過ぎ去ってゆく。**第4楽章**は、とりわけそのリズムのエネルギーが際立つ楽章である。不規則なスフォルツァンドによる強調も印象的。華やかで、どこかトランス状態に陥りそうな危うさを含みつつ、秩序を保って進む。

Column

「ベト7」人気の楽章は?

「ベト7」の愛称で知られるベートーヴェンの交響曲第7番。この曲はクラシック音楽の愛好者でなくとも聞き覚えのある人は多いはずだ。その一因は『のだめカンタービレ』であろう。そのためもあって、いまの日本では「ベト7」というと、そこで用いられた第1楽章や第4楽章を思い起こす人がおそらく多い。ではベートーヴェンの時代の人々はどうだったのだろうか。

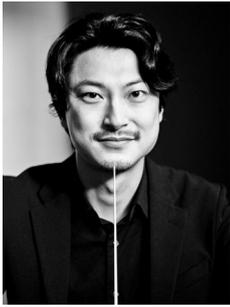
この交響曲は、1813年12月8日にウィーン大学ホールで公開初演された。この演奏会は好評で、4日後にも再演された。どちらにも多くの聴衆が押し掛け、興行としても成功であった。ただし、プログラムの最後に演奏された『ウェリントンの勝利』が話題をさらったため、初演評では交響曲第7番は影が薄い。

興味深いのは、この演奏会でヴァイオリンを弾いたルイ・シュポーアがのちに、両日ともアンコールされたのが交響曲第7番の第2楽章だったと回想していることである。

初演のときに繰り返されただけではない。この曲は19世紀の音楽愛好家を魅了し続け、続々とその編曲譜——連弾、管楽アンサンブル、弦楽四重奏など——が出版された。まだもちろん録音はなく、生でオーケストラを聴く機会も限られており、人気の曲は室内楽用編曲によって家庭で楽しまれていたのだ。そして、第2楽章アレグレットが単独で出版された例さえある。19世紀の人々にはもしかすると第2楽章が、両端楽章と同じかそれ以上に強い印象を与えたのかもしれない。

(越懸澤麻衣)

■出演者プロフィール



©hiro.pberg_berlin

指揮：出口大地 Daichi Deguchi, *Conductor*

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ賞受賞。関西学院大学、東京音楽大学指揮科にて学び、2023年ハンスアイスラー音楽大学ベルリン指揮科修士課程修了。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。以降日本各地のオーケストラへデビューが続いている。リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団のアシスタントコンダクター(2024/2025シーズン)。広上淳一、クリスティアン・エーヴァルト、パーヴォ・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、井上道義、沼尻竜典、下野竜也各氏らの薫陶を受け、ベルリン放送交響楽団ではヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務めた。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>



©T.Tairadate

ヴァイオリン：前田妃奈 Hina Maeda, *Violin*

2022年第16回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで優勝し、国際的に注目を集める新進気鋭のヴァイオリニスト。全日本学生音楽コンクール全国大会第1位、日本音楽コンクール第2位、東京音楽コンクール第1位など輝かしい受賞歴を誇る。11歳で関西フィルと共演。2022年から2023年には20カ国、60地域での演奏会、東京、大阪でのリサイタル、オーケストラと共演した。現在、小栗まち絵、原田幸一郎、神尾真由子の各氏に師事。公益財団法人江副記念リクルート財団第48回奨学生。第25回(2023年度)ホテルオークラ音楽賞受賞。第33回出光音楽賞受賞。現在、東京音楽大学アーティストディプロマコース在学中。使用楽器はサントリー芸術財団より貸与された、1727年製ANTONIO STRADIVARI。

■オーケストラ・プロフィール

東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra



【創設】

1911年「いとう呉服店(現大丸松坂屋)」の少年音楽隊として誕生。

現在の名称は1948年から。

【指揮者】

チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)、アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)、

尾高忠明、大野和士、ダン・エッティンガー(以上、桂冠指揮者)、

ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)、チョン・ミン(アソシエイト・コンダクター)、

オンドレイ・レナルト、ウラディーミル・フェドセーエフ、パスカル・ヴェロ、ヤーノシュ・コヴァーチュ(以上、名誉指揮者)、

山田一雄(永久名誉指揮者・故人)、大賀典雄(永久楽友・名誉指揮者・故人)

【ホーム・コンサート・ホール】

Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホール

【楽団ウェブサイト】

<https://www.tpo.or.jp/>

サマーミュージア特設サイト

●アンコール曲 ●ほぼ日刊サマーミュージア

●パートナーショップ特典

こちらからご覧ください。

<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/> →



アンケート ご協力をお願いいたします。

ほぼ日刊サマーミュージアに感想が載るかも?!

<https://gws-net.com/summermuza2025/> →



浴衣 de SUMMER MUZA!

浴衣でご来場の方へ特製ステッカーを差し上げます。

開場・休憩・終演時に、ホール1階「主催者受付」へお立ち寄りください。

ミュージア川崎シンフォニーホール ホールスポンサー

法人

【特別賛助会員】

川崎幸病院
川崎信用金庫
キヤノン株式会社
サントリーホールディングス株式会社
ジェクト株式会社
三井不動産グループ

【賛助会員】

税理士法人あおぞら会計
株式会社イープラス
ENEOS株式会社
有限会社エムシーエス・デザインズ
神奈川臨海鉄道株式会社
川崎アゼリア株式会社
公益社団法人川崎市医師会
川崎市信用保証協会

公益社団法人川崎市病院協会
一般社団法人川崎市薬剤師会
川崎鶴見臨港バス株式会社
川崎日航ホテル
かわさきファーズ株式会社
川崎臨港倉庫埠頭株式会社
ケイジーケイ株式会社
公益財団法人JFE21世紀財団
株式会社シグマコミュニケーションズ

セレサ川崎農業協同組合
大本山川崎大師平間寺
高橋昌也税理士・FP事務所
株式会社デイ・シイ
東亜石油株式会社
株式会社東芝
日本冶金工業株式会社 川崎製造所
ぴあ株式会社
ホテルメトロポリタン 川崎

ヤマハサウンドシステム株式会社
株式会社ワイイーソリューションズ
*
大宮町内会

他3法人

【わくわくミュージア法人サポーター】
稲毛神社
おつけもの慶

個人

阿部孝夫	遠藤智和	小笠原 将	金山直樹	国府保周	佐藤義寛	高井延幸	西 洋子	藤嶋とみ子	山下啓史	N.A
新井智彦	大越麻美子	岡田 元	喜多純一	後藤 実	新保和浩	高橋美子	西山英昭	堀江智巳	山田昌克	T.Y
市橋信一郎	大須賀徳也	岡野 功	木伏源太	小林弘子	杉山弘子	竹内啓介	長谷川喜代江	前田 泉	D.Y	
井上敏昭	大塚具幸	小倉ヒロ・ミハエル	久住映子	佐伯 昇	鈴木甚郎	都築 豊	林 直人	松嶋邦生	K.O	他匿名16名
宇佐美清一	岡垣克則	小野洋彰	小菅みつほ	佐藤晴茂	鈴木 徹	中村紀美子	廣瀬治昇	山内利夫	M.C	敬称略五十音順

ミュージア川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。